

昭和八年十月九日

〔河認物便郵種三第三〕



行豊日八十二月十

## 夕刊 趣味「陰陽理論」

科学  
轟村 大平秀之助

視覺  
空間

感覚の中最重要的は視覚で、生活の継続自然界的な大部分は先に依つて作用する眼を働かせる智識に負ふ、併し乍ら眼の構造は機械的には超理想であるが、自然界の本質を極まるに見出され、その部分は殆ど物体の一面に過ぎない、それは未だ不完全と云はれてはいけない、其の上は常に依つて全然姿の無い物は小さく見え、更に遠距離になると全然視覚が日常よく経験する所である。空間に散在する無数の星の中には地球、數萬倍の星の珍しくない、其の星が無くなる様な形態の星が無くなる。何を見れないからである。

## 更生の道

○△△

生

死

味へた、誰だか詩人は死んでと言つたが今や詩人

と云ふ言葉は完全にカル

チア化された

大衆の無智が詩人の無能

がその正否は暫くも

問題としても現存與へられ

て作曲されレコード

・西條八十になつて所

の歌

にレギュルになつて所

の歌

# 將來内郷全村を併せ 人口七萬の大平を建設

## 遠大な都市計画の綱要

平町に於ける都計實施の具体化は既報の如く來月早々町會を開き其筋に夫々申請をなすが、當面の計画としては内郷、好間、平洋、神谷・飯野各村二部隣接地併合、街路網整備、下水道完成、城山住宅地開拓、區劃整理を行ひ前記範囲の併合により現在の人口二萬七千人より三萬三千の市街たらしめ町營電氣を以て之に光熱を供給するを第一次計画とし適當の時期に於て内郷全村を併合し将来人口七萬人の都市たらしむべく漸を逐ふて第二次計画の研究を進むる方針である。

## 第七回縣下銀行同盟總會

けふ常磐支店

勤續表彰ご講演

## 三春銀行

書記今泉脩介

正藏

磐城外科病院

研究症例發表

本縣醫師會では來月四日午後一時より草野小學校を開催した

外務省情報部事務官佐藤忠雄氏の現下外交に關する講演會は今廿八日午後一時より草野小學校を開いた

第六回磐陽野球大會は毎々自治館にて行ひ藤田分會の成績を向上せしむる具體的事項

第五回磐陽野球大會は毎々自治館にて行ひ藤田分會の成績を向上せしむる具體的事項

磐中平商兩庭球選手

神宮競技で共に氣を吐く

破竹の勢で、准々決勝へ

山砲不参加

反対に廢止決定

駆新設ごころか

庭球選手松崎嬢

國旗掲揚の主役

淋れ行く人力車

乗合自動車の壓迫に

現在平町に十八臺

平青年團便り

花人科

婦人科

阪

醫院

書記

福島縣農工銀行

書記

福島縣農工銀行

書記

須藤

三男

主事

支店長

高橋

市長

吉田三郎

弘

主事

支店長